

1

忍耐・努力家 円谷幸吉選手

==円谷幸吉選手の知られない、語られない一面を紹介==

昭和32～34年にかけて毎朝、JR水郡線下り郡山行きの一発列車（6：10台）が、川東駅に到着する時刻に和田大仏前を走っている姿を、プラットホームから見ていた。後で円谷幸吉選手と知り、驚いた。

昨年、兄の円谷喜久造さんに話を伺うと、「幸吉は俺の影響を受け、毎日、練習に取り組んでいた。」

発端は、喜久造さんが仲間4～5人で長距離の練習をしていたところに、毎回、見に来ていた。それを見た兄は「お前もやるか」と話したら、即「やる」と言ったので、そのグループに加わり一緒に練習をしていた。

しかし、幸吉は「これだけでは練習不足だ」と感じ取り、校庭や高校周辺、朝夕時間を見つけて練習に励んでいた。

「それが朝6時前に自宅を出て、六軒、前田川宮の前、延命寺あたりから、和田大仏前、和田地内、浜尾の鹿島神社、須賀川高校付近、旭町を走って自宅に戻る約10～15kmのコースで走り込みをしていたようだ」と話してくれた。



ここがポイント！

良き理解者（兄 喜久造さん）の存在・諦めない忍耐強さ・努力家【ラストスパートの練習は浜尾の鹿島神社前から宇津峰大橋間で行っていた】

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

2

江藤 長俊 (えとう・ちょうしゅん＝医師)

大東地区で代々、地域医療を担ってきた江藤医院。私も小さいころからお世話になってきました。長俊はその祖と言える人物で、江戸時代後期、県内でいち早く種痘を行った本県近代医学の先駆者です。

市の資料などによると、長俊は文化十一年（1814）年、漢方医の息子として市野関村に生まれました。十七歳で江戸に行きオランダ医学を学んだあと、長崎でシーボルトが開いた医塾で学び、高野長英らと親交を結びました。村に戻って西洋医学の医院を開き、天然痘から村民を守るため種痘を行いました。二本松市の医者と並び、県内で最初の種痘と言われています。当時珍しかった電気治療も行い、その治療器具は都内の逓信博物館に収められているということです。

長俊は功績が認められ苗字、帯刀が許されました。江藤家に残る掛け軸（上図）には葉の図を背、医療器具や刀を前にした長俊が描かれています。



ここがポイント！

江藤家は現在まで続く医師の家系。長俊の息子の長安、孫の健雄も医師です。長安は自由民権運動の活動家としても知られています。その長男の健雄は医院を市野関から小作田に移したほか、石川郡会議員としての政治活動、コメの新品種の導入や肥料の開発など産業振興活動、句作、万力山公園の開設などを通じ、地域と深く関わったようです。

作成者：金澤

1

狸の和尚さん～宗徳寺～

「この坂道をずっと上った先にあるお寺には、その昔、狸の和尚さんがいたらしい。」

お寺へ向かう道中、道端にあるたくさんの狸の置物にドキドキしながら聞いたお話でした。

宗徳寺のお坊さんだった託善和尚は、元々、仏様に仕えてご利益を得たかった狸だったそうです。それでも、人々は真面目な和尚さんを慕っていたため、和尚さんの亡くなったあとには碑を建てました。

もしかすると、狸の置物は、私達を見守ってくれているのかもしれない。



ここがポイント！

お寺への道中、たくさんの狸が見守ってくれているところ！

作成者：深谷

2

万力山

小学生の頃、春。桜の木を見つけたら自転車で行ってみるという遊びをしていました。そんなとき、万力山の木々の中に桜を発見！桜を目指して山の奥の方に行くと、歴史ある雰囲気のある石像が！その下には、小学生の腕くらいの太さで体長2メートルはある大蛇が！友達と一緒にギャーと叫びながら逃げてきました。家で祖母に話すと「その石像は小作田で最初のお医者さんだよ。その蛇は守り神だね」と一言。今でも覚えている神秘的な経験です。

※今年、石像の撮影を試みたのですが、場所をみつめることができませんでした。



ここがポイント！

- ・小作田初の医者 江藤先生の石像がある（詳細は要確認）
- ・えとうまんりきさんの屋敷跡であるため万力山と呼ばれている

作成者：しおり

1

木舟城跡－「きらり木舟城」－

狸森地区の、大森小学校の前にあります。過去に測量調査を実施したことがあり、当時の郭がよく残っています。文献や伝承では、南北朝時代からつづく矢部家の居城であり、二階堂氏について戦国時代まであったとされています。平成16年に城跡の歴史を記した石碑と「木舟城懐古」という題の漢詩の石碑が建てられています。

「木舟城懐古」

埋峯西麓木舟城（埋峯山西麓の木舟城）

憶昔築城興国咸（昔を憶う築城興国の年）

連綿二百有星霜（連綿たり切れることなく二百年の歲月）

城址荒涼委狐貉（城跡は荒涼として狐狸の遊場となつて）

枯芦風戦帯残陽（枯芦は風に戦き残陽を帯びて悲し）

今村人蘇歴史証（今村人の宗によってよみ返る歴史の証）

永和栄我郷狸森（永和に栄えんわが故郷狸森）



木舟城



「木舟城懐古」の碑

ここがポイント！

城跡に城を模したモニュメントと「きらり木舟城」の看板が置かれているところです。

作成者：管野和博

2

団子山古墳

古代の遺跡として前方後円墳である。

東北地方では宇都宮以北では唯一の古墳である。

市歌にも唱われる一里塚が鏡石町との境介に存在するため本塚も同様の表示（標識等）で通過交通する県道沿に設置し本市の観光資源とするのも良いものである。



ここがポイント！

交流人口の拡大に効果大である。

作成者：生田目 進

3

須賀川の団子山古墳 中通り最大の前方後円墳

福島大学考古学研究室（菊地芳朗教授）により2012（平成24）年4月から、途中2018（平成30）年からは須賀川市との共同で2021年8月まで発掘調査を行った。

その結果、古墳の長さは65㍍、後円部直径55㍍、墳頂直径17㍍、後円部の高さは10.8㍍、前方部の長さ13㍍、前方部の前端幅は20㍍、くびれ部分の幅15㍍で、県中通りの前期古墳の中で団子山古墳は大きさが二番目だが、前方後円墳としては最大。

後円部の墳頂中心で墓壇（ぼこう＝墓穴）を確認し、木棺が埋められているとみられる。また、後円部の墳頂周辺には直径45㍍の円筒埴輪と35㍍の朝顔形埴輪が交互に、推定約90本が見つかった。



ここがポイント！

団子山古墳は以前、後期古墳（6世紀）とみられていたが、出土した埴輪がそれ以前のものでは一との認識が2000年代に広まり、実態解明が必要とされていたもの。

今後は全貌解明も必見だが、団子山古墳周辺の整備を図り、地域及び市の財産として取り組むことが肝要と思われる。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

4

大東村の合併記念碑

明治22年に日照田、市野関、小作田、田中、上小山田、下小山田の六村が川東村、雨田、大栗、狸森の三村が大森田村へと合併した。昭和30年に両村が合併し、大東村が発足した。合併記念碑はこれを記念し、村役場の敷地内に建立された。今も役場跡地の「ふれあいパーク小作田」に、松の古木に守られるように建っている。役場の近くに旧川東小学校があり、私はその最後の卒業生。役場は通学路にあり、記念碑の意味もわからず遊び、友達とよく道草をくった記憶がある。



ここがポイント！

大東地区は一体感が醸成されるまで、石川郡への編入や、小塩江地区との合併などの歴史的な変遷があった。記念碑はその独自の歴史を今に伝えており、いわば地域のアイデンティティのよりどころとも言えるのではないかな。

作成者：金澤

5

市野関稲荷神社古墳

市野関地区にあり、古墳の脇には稲荷神社が鎮座します。平成18年に福島大学で測量調査を実施した結果、全長39mの前方後円墳があることが判明しています。前方後円墳は基壇上の壇のうえにつくられており、このような作り方の古墳は今の栃木県（特に現在の壬生町・下野市など）に多いことが分かっています。近くの同時代の古墳（大仏古墳群など）とは古墳の作り方が異なることから、別な勢力による古墳である可能性が高いです。大東地区を代表する6世紀の古墳です。



古墳の測量図



くびれ部（前方部と後円部との接続部）

ここがポイント！

木を伐採したので、古墳の形がよくわかる場所です。

作成者：管野和博

6

団子山古墳 — 古墳時代初めの王の墓 —

団子山古墳は、日照田地区にある古墳時代初めころの古墳です。福島大学が平成24年から令和3年の10年にわたって発掘調査を実施しました。この結果、現状では円墳にみえましたが、地下に前方部が埋まっており、長さ65mの前方後円墳であることがわかりました。また、古墳からは、埴輪が列になって出土しました。埴輪は古墳時代のはじめころ、4世紀後半頃のものでした。

古墳時代初めころの古墳は中通りでは大玉村・郡山市・須賀川市に少なく、団子山古墳は中通りで最も南に位置します。また、この時代の埴輪は東日本では数が少なく、東北では5例しかありません。この時代の埴輪が並んで出土した事例としては、東北地方で初めて、東日本でも数例しかありません。大変希少な古墳です。



ここがポイント！

- ・ 中通りで南端にある古墳時代初めころの古墳。
- ・ 古墳時代初めころの埴輪は数が少なく珍しいところと、後の時代の埴輪にくらべて倍以上に大きいところ。
- ・ 団子のような形をしているから「団子山」と昔から呼ばれ、今まで残されているところ

作成者：若年寄

1

八流の滝

小倉川と大月川が合流し網の輪随洞を通り八流の滝へと流れるが冬期間には水流の氷河が絵となり県内外から写真マニアが来訪する。同滝は下流の水路には昔水車が設置され米など穀物の精米に利用した。（教育委員会の看板あり）

袋田の滝より小さいが氷河は滝全体が素晴らしい。水車を設置すれば写真マニアが多数となる。



作成者：生田目 進

2

大森小学校の三角屋根と時計 —狸森地区のランドマークタワー—

大森小学校は、平成2年に現在地に移転しました。三角屋根の塔（時計台）が特徴的な校舎で、母畑街道（一般県道母畑須賀川線）を自動車で走行していると、阿武隈山地の山間からこの三角屋根が突然あらわれます。狸森地区のランドマークと言ってもよいのかもしれない。



ここがポイント！

メルヘンチックな三角屋根！

作成者：管野和博

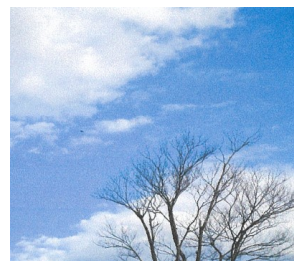
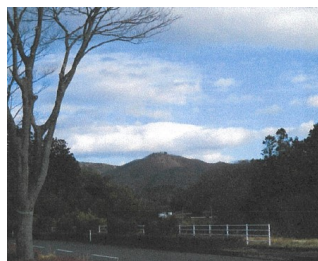
3

いつも見守ってくれている羽山様

気がつけば「羽山様」と様付けで呼んでいた山。（村人は皆、そう呼んでいた。）

山の麓というか中腹に住んでいたの、出かけて帰る時は、山に向かって帰る感じがとても好きだった。（遠くて嫌になることも再々あった通学路でもあったが…）

山頂からみる景色は最高！山道が今は藪になっているかも…。



ここがポイント！

- 姿が格好いい ◦清々しい気持ちになる
- 朝日・夕日に映える
- 四季の色もよい ◦標高690m

作成者：せきねえさん

4

午後の空が綺麗な交差点

段々と仕事の区切りの付け方が分かってきた、夏の夕方。のんびりと家路に着く私の目線の先には、今走っている上り坂の頂上と、その更に向こうに続く透明な空がありました。

こちらは、頂上から下った先の赤信号で停まっている最中に、急いで撮った空の写真です。石川、須賀川、玉川、郡山へ続く道が交差しているこの空間は、大東の空がいちばん広く感じられると思っています。

気分がふんわりと柔くなるような、お気に入りのスポットです。



ここがポイント！

・広い空！
・日によって幻想的な空模様も、もしかしたら…？

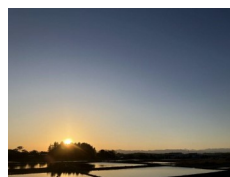
作成者：深谷

5

大東コミュニティセンター周辺の 田園風景

大東コミュニティセンター周辺の一面に広がる田園。そこで見られる、四季折々に美しい田園風景。春の田植え前には一面に水が張られ光がキラキラと反射し、田植え後には小さな苗が水から出ている様子が見られます。初夏にはぐんぐん育った稲が青々と茂り、花が咲き、実り、頭を垂れ、秋になるとどんどん黄金色に変化していきます。冬の積雪時には、田園の地面に、真っ白く雪が積もります。

季節ごとの美しい田園風景は、大東の宝です。



ここがポイント！

・四季折々見られる美しい田園風景
・収穫されるお米もとても美味しい！

作成者：しおり

6

生活道路から望む雄大な山々の眺望

普段歩いている道から、南的那須高原、磐梯山、吾妻連峰、安達太良山、そして北に蔵王まで望むことができます。展望台や山の頂などと違い、すべてを見渡すことは難しいですが、道の場所や角度によってさまざまな山の姿が楽しめます。特に冬場は空気が澄んでいることもあり、雪に覆われた山が青空に映えて神々しささえ感じます。

ここがポイント！

大東地区は阿武隈高地南部の丘陵地帯と阿武隈川沿いの平地が織りなす、多様な景観が魅力です。特に、丘陵地帯の西縁部の道から遠方を望むと、ここからあんな山が見えるんだ、などと思わぬ発見があります。



作成者：金澤

7

大栗の大石（栗は石の意）

阿武隈山地の地質は、大部分が阿武隈花崗岩類で形成されている。いたる所に大石や岩がある。江戸時代から昭和初期まで大型重機がなかったため、田畑の中にある石を除けることができなかった。今も残っている石もある。特に東部に多い。小字名に石の付く地名や通称にも石が付くものも多い。

・字団子石 ・字鞍掛石（馬の鞍を掛けた石） ・字夫婦石（大石の間に松が生え2つに割れた） ・字鸚鵡石（「オーイ！」と声をかけると「オーイ！」と応える別名ホイホイ石ともいう） ・字石平 ・蛇石（岩や石の間に蛇が生息） ・屏風石 など
 ・オマケ 大栗地名の言葉あそび
 馬場（ババ）→井戸端（イドバタ）→腰巻（コシマキ）→荒井（アライ）



ここがポイント！

- ・名前が面白い（ネーミングがよい！）
- ・地質、地形、信仰等から景色の面白さや先人の開拓の苦労までもが偲ばれる。

作成者：せきねえさん

8

大東中学校 ～立志の庭～

大東中学校にある、“立志の庭”は、校舎からも見える日本庭園です。保存会の人々が年に2回、木の剪定や清掃をしてくれています。（ありがとうございます）

コイが泳いでいたり、ふん水があつたり、見ているといやされます。



ここがポイント！

池には蓮の花があって、夏にはピンクのかわいい花を見ることができます。

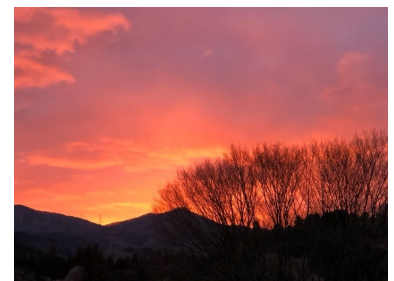
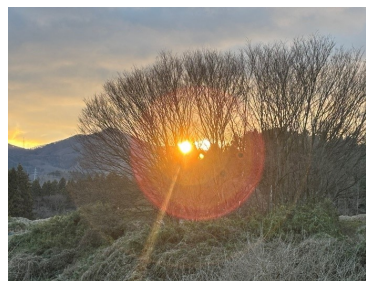
作成者：永山 心結希

9

家から見える景色 （初日の出）

家の2階の窓は東向きなので、とても陽当たりが良く、冬でもあたたかです。

左の写真は今年（2025年）の初日の出です。朝はあまり天気が良くなくて、外がすごく明るく光ったと思って急いで撮ったものです。撮ったらすぐにくもり出して暗くなってしまったので奇跡の一枚になりました。



ここがポイント！

山の稜線と木の陰のコントラストがとてもきれい。一つとして同じ景色にならない自然がつくる風景は見えていてあきることはありません！人家が少ないのも良いのかも！？

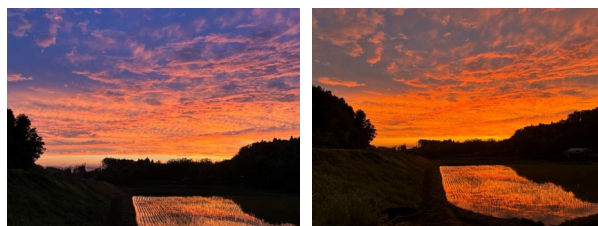
作成者：永山 心結希

美しい田園風景

夕焼けがまぶしいと思って振り返ると、こんな幻想的な空が広がっていました。苗を植えたばかりの田んぼに空が反射していて、うっとりする景色です。

まだ少し青い空がだんだんと赤く染まり、暗くなっていく様子は、一つとして同じものは無く、時間を忘れて見入ってしまいます。

毎日通っている風景が、時々こんな風に輝き出します。気が付いたら携帯のカメラで何枚も写真を撮っていました。



ここがポイント！

田んぼと山と広い空が広がる大東地区、何も無いと言われるかもしれませんが、それが良い。ここには、まちなかでは見ることが出来ない日本の原風景が残っています。

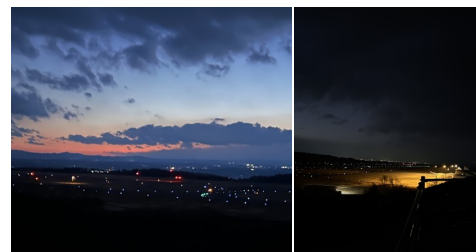
作成者：永山 心結希

宇宙に行けそうな福島空港

公民館の星空観察会で、ここを訪れたことがあります。星空の美しさはもちろんですが、滑走路のライトと星空が一体となって、そのまま宇宙へ繋がっている感じがして、とても印象に残っています。

また、大震災で新幹線が不通となっていたとき、なんとかチケットを取って羽田から福島空港へ帰ってきました。被災した土地なのに、なぜだか安心したのを覚えています。

今はオーブですが、ウルトラ兄弟たちが、空港を守ってくれている感じのところも他にはない魅力だと思います。



ここがポイント！

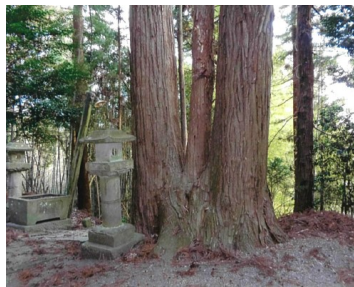
ウルトラマンに会えそう！
高台にあり、空と一体感のある滑走路がワクワクする！
災害のときも頼りになる！

作成者：やっしー

1

日照田の諏訪神社の神木 【3本杉】

諏訪神社の石段（108段）を登り切った境内左側に3本杉の神木がある。幹回り約285㍓と255㍓、123㍓の3本杉の根が一株の様相を呈している。諏訪神社は西暦1448（文安5）年5月に建立後、植林整理を行った。（注：577年前）地域では、当神社境内において毎年三匹獅子舞を奉納していることから獅子舞杉（太郎、次郎、花子）になぞらえている。獅子舞は明治4年5月から例祭日に奉納していたが、現在は獅子頭のみを奉納して、式典を執り行っている。「三本杉が獅子舞になぞらえられるのは、ここだけだろう」と、地元の方は珍木の有り難みを感じている。



ここがポイント！

獅子舞は区内家庭の長男が踊り、西暦1872（明治5）年から、1995（平成7）年まで、123年間続いていた。その間、長男だけでは踊り子が足りず、男子なら誰でも可能としたが、子どもが不在となり廃止した。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

2

旧大森小跡地の大イチョウの樹齢は、 190年

明治7（西暦1874）年に小学校跡地にあるイチョウの木の樹齢を300年としているので、正確化を期すため、県文化財保護審議会会長・県樹木医会長の鈴木俊行さんの指導で幹周調査を実施した。実施日＝令和6（2024）年12月31日

その結果、幹周＝476㍓ 直径約＝151.5㍓ 半径＝75.76㍓
成長仮定＝年4mm 757.6mm÷4mm＝189（約190年）よって
300－190＝110年の差異が判明した。

大森小学校では、平成4年頃から10月下旬になると全校生によるギンナン採集を実施。現在も行っている。平成22年度には約100㍑を収穫し、各家庭から注文を取り、販売して教育活動に役立てている。



ここがポイント！

明治7年の北須釜簡易小学校狸森分教室時頃に、校舎に向かって階段を上り詰めた土手の右側に植栽された樹齢190年、樹高約30㍔の大イチョウの木があります。春は枝一面が淡い新緑、夏の緑、秋の金色の葉が魅力的。福島県が定める緑の文化財に1984（昭和59.10月）年に登録されています。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

3

古寺山の松並木

樹齢300年といわれた県の天然記念物（昭和34年指定）の松の木は、かつては約130本あったが、平成23年には30本程度になり、毎年松くい虫の被害に遭い伐採していた。昨年も4本を伐採し、現在は皆無状態である。

風が松葉を吹き抜ける音を「松並木の松籟（しょうらい）」と名付けられ、平成11年に県の「うつくしまの音30景」に選ばれた。



ここがポイント！

松の木は皆無状態となったが、松の切株が残存しているため、松の面影がしのばれる。松に代わる杉の勢いがすさまじく、そのさまを見てほしい。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

4

古寺山のあじさい

あじさいは 1966（平成8）年に、古寺山白山寺境内を中心に植栽された。その後 道路沿いや駐車場など範囲を広げ、赤やピンク、白、ブルー、紫など約30種類、約6000株に増え、毎年7月に「あじさい祭り」を催している。

祭りの開催場所となる古寺山周辺道路や参道などの草刈りや誘客用の「のぼり」は「古寺山あじさい祭り実行委員会メンバー」が設置し、祭日時は県内外から多くの客が訪れ賑わっている。

ミニコンサートや写真撮影会、俳句会、地元の中学・高校生らが甘茶を振る舞い、見物客を接待している。

なお、現在のあじさいの株数は枯死により約3000株。



ここがポイント！

あじさいの開花期間は長いですが、見頃期に鑑賞してほしい。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

5

古寺山の松並木

古寺山白山寺の参道沿いに植栽されている樹齢200～300年の赤松並木。福島県の天然記念物に指定されている。

また、「古寺山松並木の松籟」（松の梢を吹く風）は、うつくしまの音30景に選ばれている。初冬から早春にかけて「ヒューヒュー」という音が聞こえてくる。

少し残念なことは、松くい虫の被害や植林された杉に負けていること。



ここがポイント！

- ・古い参道が残っていること
- ・中腹の駐車場から歩いて松並木を通るのもおすすめ

作成者：せきねえさん

6

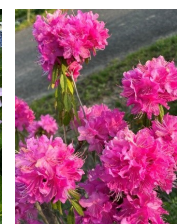
春の庭を彩る花々

家を建てた時に、私の大ばあばと祖母が一生懸命色々な花を植えたそう。春になると色とりどりの花々が咲きほこります。

母のお気に入りには赤と白がまざった牡丹だそうです。

ここがポイント！

春一番には福寿草が咲いて春をつげてくれます。家の前を通る人にも季節を感じてもらえると思います。



作成者：永山 心結希

1

古寺山自奉楽

須賀川市上小山田にある古寺山白山寺で33年に一度奉納されるおどりです。牡丹園などで5月頃におどっています。

2月には、文化のつどいにも参加しています。

着物やおどりを覚えるのがとても大変ですが、見てくれている方の笑顔や、「上手だったよ」と言われるのがとても嬉しいです。



ここがポイント！

今は子どもが6人でとても少ない状態です。少なくともがんばっているの、ぜひ牡丹園や文化のつどいなどに来て見てみてください。

作成者：MK

2

県内にない珍しいまつり 日照田の祭田祭

地名が日照田ということからして、干ばつが頻繁に起こっていたと推察される。

西暦1729（享保14）年 時の8代将軍 徳川吉宗は、米が一般住民に行き渡ることなく、全国的に米騒動（農民一揆）が起きていた。

当地域では米の生産を増やすため、雨乞を行った。

田んぼの中に約3m四方に笹竹を立て、四手を付けた縄を張り、祭壇を作った。

宮司が神事を取り行い、地域住民が参列して五穀豊穡を祈願する祭り。

この種まつりは、「県内には無く、全く珍しい雨乞い祭りなので、今後も継続されることを特に願う」との県神社庁のコメント。



ここがポイント！

毎年 祭田祭の当番者（宿）を決め、7月に行っている。約290年続く伝統行事。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

3

正月飾りを燃やす 子どもたちの小正月行事

正月飾りを燃やす「とうれいぼう」は、無病息災と豊作を祈願する小正月行事として、毎年1月に、狸森の下薑（しもはじかみ）地区で行われていた。

第二次世界大戦前から行っていたが戦争時は中断し、1947（昭和22）年に復活し、2020（令和2）年まで73年間実施していた。

2021（令和3）年には子どもが皆無となり中止。

子どもたちは「トウリ小屋」といわれるわらで作った小屋に一週間ほど寝泊まりした後、小屋の中で地区住民が作った餅・豚汁、甘酒を味わい、正月飾りと小屋を燃やす小正月行事の風習である。



ここがポイント！

トウリ小屋に火を放つと、燃えさかる青竹の音がすさまじく響き渡るさま。

トウリ小屋の中で、甘さけを飲み、餅などを食べながら談笑する子どもたちの笑顔。



作成者：須賀川市日照田 横田 忠

4

狸森の盆踊り

今から50年前、狸森の青年会が中心となって盆踊りを復活させる為に頑張りました。

自ら、狸森の長老のお宅に通い、夜な夜な笛や太鼓の練習です。

運営方法についても、寄付金のもらい方、掲示について教えてもらいました。

8月15日、狸森の盆踊りが復活。

女性の笛や太鼓は、当時、珍しく、とても話題となり大成功に終わりました。



ここがポイント！
盛況だった狸森の盆踊り

作成者：りえちゃん

5

熊谷観音

上小山田字京塚の木立の中に建ち、地域の方に守られています。言い伝えなどによると、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての武将・熊谷直実（なおざね）が出家し、諸国をめぐる中で上小山田を訪れ、そこに住んで村人を教化しました。村人はその徳を偲んで観音堂を建立したと伝えられています。上小山田地区の住民の実に半数が熊谷姓ですが、直実と熊谷観音が姓の由来ということです。

熊谷観音では毎年、春まつりと夏まつりがあり、春まつりでは護摩焚きが行われています。直実は武蔵野国熊谷郷（現・埼玉県熊谷市）を拠点とした武将。一ノ谷の戦いでのできごとが能の「敦盛」、歌舞伎の「一谷雙軍記（いちのたにふたばぐんき）」などに描かれています。



ここがポイント！

小中学校には熊谷姓の友人が多くいました。阿武隈川の東はイノシシ、西はクマとの棲み分け（今はそうでもないらしい）を聞かされてきた中で、なぜ上小山田に熊谷姓が多いのか不思議でした。熊谷観音の存在を知り、疑問が氷解するとともに、熊谷姓に味わい深いものを感じました。

作成者：金澤

6

荒滝不動

阿武隈高地から阿武隈川に注ぐ取上川（とりかみがわ）の上流、荒滝のほとりに祀られています。荒滝の滝つぼに不動明王像が埋まってるのを住民が見つke、それを水から引き上げて祀ったと伝えられています。不動明王を取り上げたことが取上川の名前の由来となったとのこと。毎年5月に祭礼が行われ、いまでも地域から厚い信仰を受けています。

取上川上流周辺には清流や清水があり、清流には沢蟹やサンショウウオなどが生息していました。小学校時代、地元の友達と清流で遊び、「胃の薬だよ」と勧められてサンショウウオを生きたまま丸のみしたのを覚えています。今も健啖家の部類に入りますが、これもそのおかげかもしれません。



ここがポイント！

地名や川の由来に関わる伝説は各地にあると思いますが、それが忘れられないよう、伝えていきたいですね。

作成者：金澤

7

神明神社の狛犬（狸森）

石の大鳥居を抜けると、見事な造形の狛犬に目が留まります。社殿に向かって右の阿（あ）像はぐっとにらみを利かし、左の吽（うん）像は子に従え、ともに空を飛ぶように後ろ足を跳ね上げた躍動感のある姿を見せています。

旧大森田村の村長が昭和八年、十回目の伊勢神宮参拝と還暦を記念し奉納しました。村長のひ孫にあたる地域の方によると、昼でも暗いような沿道沿いの深い杉林から、所有する杉を切り出して神社に狛犬、近くの宗徳寺に天蓋を奉納したそうです。作者についての資料は残念ながら残されていませんが、作風や時代、地区と石川町のつながりから、小林和平の作である可能性があり、とみる専門家もいます。神明神社の宮司さんが小作田・鹿島神社の宮司を兼ねられていることを縁に、時々、神明神社を参拝しています。訪れるたびに迎えてくれる狛犬のすばらしさに、いつも感動を覚えています。



ここがポイント！

小松寅吉と弟子の小林和平はともに石川町出身の石工。狛犬をはじめとしたこの2人の名工の作品は県南各地に残され、近年注目を集めています。須賀川市内では牡丹園や保土原神社に作品がありますが、大東地区では確認されていません。何らかの資料から、来歴が明らかになることを期待しています。

作成者：金澤

8

歴史感じる古寺山白山寺

723年（養老7年）、行基の開基と伝えられている。境内の観音堂は、須賀川城主二階堂氏の祈願所であった。

2001年（平成13年）から地元の有志によって付近に紫陽花が植えられ、現在では約30種、6000株もの花が咲き誇る紫陽花の名所としても知られるようになった。7月第2日曜日紫陽花まつり開催。

私が小3か小4の頃、父に連れられ12月31日のおこもりに行ったのだが、子ども達も結構な人数いるのに知らない子ばかり。たちまち飽きてしまった。いつ帰るのか父に聞くと、「先に帰ってろ」と言われ、真暗な中1人でこわごわ家に帰った思い出がある。（大栗と上小山田は、隣の地区だが小学生には学区外）



ここがポイント！

- ・天台宗の寺院
- ・「古寺山 白山寺」であるが通称「古寺山」
- ・苔むした名古刹
- ・永田善吉（亜欧堂田善）の絵馬が奉納されている。

作成者：せきねえさん

9

大栗の宗吾分霊堂（宗五郎様）

2001年（平成13年）のうつくしま未来博までは、大栗字鞍掛石に宗五郎様が祀られていたが、未来博の森の学校会場の一部となるため、大栗字戸屋に移転した。大栗区で守っている。

明治30年頃、大栗と雨田で激しい山争いがあり、それに勝ったので、その機会に、下総の宗五霊堂に参って、その分霊を受けてきて、百姓の神様として大切にされてきた。

昔は祭りの日は大層賑わっていたそうで、相撲や花火、出店もあり餅まきもあったときいている。

※宗吾＝宗五郎＝木内惣五郎＝佐倉宗吾＝宗五郎様＝宗吾様



ここがポイント！

- ・石燈籠に明治33年8月2日と記されている。
- ・「神様」と言っているが、千葉県佐倉市の鳴鍾山東勝寺宗吾霊堂が本尊。仏教。
- ・お堂の中に石像があり、チョンマゲに袴（カミシモ）、背中に名前が彫ってある。

作成者：せきねえさん

狸森の神明・八幡神社の狛犬

由来（神明神社）

光仁天皇の御代宝亀2年（772年）9月伊勢大神を狸森字神明に御勧請する。これが当社の創祠。以後狸森木舟城主矢部氏代々当所御領の折り、鬼門守護氏神として、専ら御崇敬にあった御社殿は、享保年間、御再建代々巫子の守護するところであったが、大正7年8月18日、八幡神社に合祀する。

同級生に聞いたところ、狛犬の作者は、禰宜様もはっきり分からないとのこと。別の同級生のお姉さんは、八幡神社で相撲大会をしていたのを覚えているそうだ。



ここがポイント！

- ・飛翔獅子型狛犬（飛んでいるみたいな形をしている）
- ・大人気の小松寅吉の流れを汲むようにみえる
- ・カッコイイ！

※ネットによれば口を開けているのが獅子で、閉じて角のあるのが狛犬。いつも見ているのは、獅子と狛犬の組み合わせだったということらしい。

作成者：せきねえさん

古寺山自奉楽

お父さんも子供の頃からやってきた古寺山自奉楽。

私の姉と兄もやってきたので、私が2歳の頃から同じ衣装を着て（踊れないけど）参加してきました。

今では子供の数が少なくなり、中学生まで参加しています。

福島県の無形文化財にもなっているので保存会の人達（父も入っています！）が一生懸命頑張って活動しています。

この踊りは田植えから稲刈りまでを表していて、豊作を祈るために奉納する踊りです。古寺山の33年に一度のご開帳の時にも奉納してきたそうです。



ここがポイント！

着物を着て、花笠をかぶって踊る姿はお年寄にとっても喜んでもらえます。ふりに合わせて花笠をふるふると動かすのが難しいです。同じ様に見えて少しずつ違うふり付けを見てほしいです。

作成者：永山 心結希

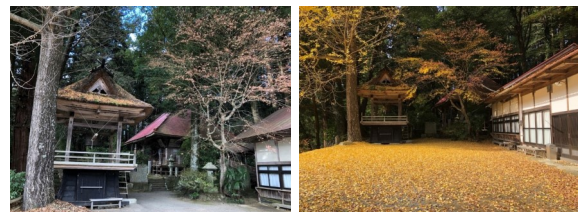
古寺山～白山寺～

古寺山白山寺は養老7年に行基菩薩が開いたとされています。須賀川城主の二階堂氏の祈願所でもあったそうです。御本尊は33年に一度御開帳され、その際には古寺山自奉楽が奉納されます。

古寺山に行くまでの道には約6000株（現在は枯れるなどして3000株）の紫陽花が植えられていて、毎年7月には「あじさい祭り」が開催されます。また、樹齢300年といわれる県の天然記念物に指定されている松並木があり、風が松葉を吹き抜ける音は「松並木の松籟（しょうらい）」と名付けられています。夏は紫陽花、秋は銀杏（いちょう）がとてもきれいです。右も写真はイチヨウの葉で一面黄色い絨毯をひいたようになった様子で、静かで神聖な空間に心が洗われました。

古寺山の景観と歴史を大切に守るため、上小山田区の住民が毎月清掃しています。我家では毎年初詣に行っています。除夜の鐘の音は、とてもやさしく心に響きます。

また、私の家では何かある前には必ずお参りに行っていたそうです。私の姉と兄も、高校入試前に古寺山へお参りに行ったお陰か、無事第一志望に合格することが出来ました。



ここがポイント！

山の奥の方にある古寺山まで登っていくときの松並木やたくさんの紫陽花たち、杉林からの木漏れ日などが作り出す景色はとても心が落ち着きます。御本尊はもっと上の方にあり、山全体の空気が澄んでいて、神聖な気持ちになります。

みなさん一度お参りに来てみてください。

古寺山までの道のりはスリリングでそこもワクワクさせてくれますよ。

作成者：永山 心結希

1

福島空港公園

福島空港の周囲に広がる公園は、エアフロント、緑のスポーツ、野外活動の3エリアからなり、このうち野外活動を除く2エリアが大東地区にある。平成7年オープンしたエアフロントでは四季折々の花が咲く中での散策が楽しめ、かつては息子と、今は孫とウォーキングや自然との触れ合いを楽しんでいる。



ここがポイント！

散策、スポーツ、レクリエーションの場として幅広く利用することができ、市内はもとより周辺地域の住民からも利用されているという。ただ、十分に知られているとは言えず、活用が広がれば、大東地区の交流人口の拡大にもつながるのではないかな。

作成者：金澤

2

大森田郵便局 ー今に残る「大森田」の地名ー

大栗地区にあります。大森田という地名は、明治22年の大栗村・狸森村・雨田村が合併してできた大森田村に由来します。昭和30年に川東村と大森田村が合併して大東村となりますが、大森田郵便局は明治時代からの村の名前を残す施設として、今や希少だと思います。

ちなみに、私がはじめて須賀川に来た際、「大森」小学校なのに、「大森田」郵便局になっている理由がさっぱりわかりませんでした。「雨田」を含むか含まないかという理由をのちに知り、この地区と学区が異なるのも、歴史的にも面白いと思いました。



ここがポイント！

「大森田」と「大森」の違いがわかる場所！

作成者：管野和博

3

旧大森小学校 ー埋蔵文化財発掘調査事務所の思い出ー

旧大森小学校は、平成2年に現在地に移転する前の校舎で、古い校舎が残っています。移転後、この旧校舎は埋蔵文化財発掘調査事務所として使用していました、私は平成12年4月に須賀川市に発掘調査の調査員（臨時職員）としてお世話になりました。その事務所がこの旧大森小学校で、若かりし頃の思い出が多くあります。



ここがポイント！

地形の制約上、校庭や体育館が山の上にある（あった）ところ

作成者：管野和博

4

水郡線川東駅舎の姿は

水郡線開通90周年を迎えるが、敷地内には昭和6年開通を記念したキンモクセイが植栽されている。

本古木は市内で2番目に古く市内外から関係人口の増加が期待できる。

更に周年記念事業として水戸鉄道管理局から評価となることに期待する。

牡丹園には約20分程で届くのでホームに牡丹園、松明あかし、花火大会等の観光案内看板の設置を望む。

ホーム内の植栽は管理が不十分であるため撤去を含め検討して欲しい。所有権者について商工会に相談あり。



作成者：生田目 進

5

駅（今は無人駅となり）

水郡線は大東地区唯一の鉄道駅であり、通勤、通学目的のほか、鉄道荷物の取り扱いの駅、郵便関係も利用。交通面において便利な地域で人の流れも多くにぎやかな所でした。

水郡線は地域にとって生活するにあたって便利な所でバスがあり、電車がはしっているという面において最高で住みやすいところ。



作成者：関根 孝子

6

「狸の置き物」

大東地区内を車で移動していると、いたるところに狸の置き物が設置されています。堂々たる大きな狸から、あまり目立たない小さなサイズの狸、色は金色から石像色など様々。狸の由来は、大東地区狸森（むじなもり）の「宗徳寺」に伝わる狸の伝承からです。地域の安全や見守りなどの目的で置かれた狸の置き物は、大東地区の特徴的な風景になっており親しみを感じます。

「ウォーリーをさがせ!!」の狸バージョンで「狸をさがせ!!」でいくつ発見できるか、訪れてみてはいかがでしょうか。話のネタになりますよ。



ここがポイント！

大東地区内に狸の置き物が10体以上設置されています。

作成者：安藤

マッチ一本火事の元

今から約50年以上前、狸森の小学生の子供達（10名くらい）で赤と黒のクレヨンで「火の用心」と書いた用紙を作成。夕方、拍子木をたたきながら「火の用心 マッチ一本火事の元」と大きな声で言って地域の家を15軒ぐらい回り、用紙を配りました。

週に一回ぐらいでしょうか？

時々、おだちんをもらえて、それがうれしかった！

6年生の代表が1年分まとめて、鉛筆やお菓子を買ってメンバーに配ってました。なつかしい思い出です。

当時は子供達も、その家の家族構成や一人暮らしなど把握していました。防災の面からも素晴らしいですね。



ここがポイント！
素晴らしい地域力！

作成者：りえちゃん

行商人で賑わう川東駅

川東駅の歴史～

1931（昭和6）年10月 水郡北線の終着駅として開業

1929（昭和4）年 笹川～谷田川間開通

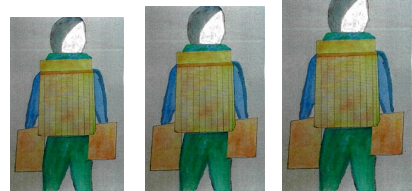
1931（昭和6）年10月 谷田川～川東駅間開通

1934（昭和9）年12月 磐城棚倉～川東間開通により水郡線全通

昭和33年に蒸気機関車からディーゼルカーとなる。

川東駅のにぎわい～

川東駅を利用する行商人（約30人）は、上り一番列車で石川、棚倉、塙、大子、水戸、土浦方面に前田川、和田、浜尾、小塩江、川東、大森田地域の農産物などを背負い、行商に出かけていた。到着駅には荷受人が待機し、行商人は荷を引き渡すと直ぐその列車に乗り、先の駅に出向いていた。行商人は女性が大半で、1日2往復する人もいた。行商人に対し、ホームに荷物台を設置してくれた駅もあった。



ここがポイント！

荷物を運ぶ「かご」は、背中に負担がかからない木皮と竹で編み、荷物が効率的に入るように作った。両手には段ボールや手提げ、「かご」の上に荷段ボールをのせ、その上に荷物を入れた袋を頭の辺まで積み上げていた。農産物は、りんご、もも、なし、ブドウ、ネギ、海産物。他に注文されたもの。一回に運ぶ荷物量は約60～80kg。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

川東駅

高校3年間は、川東駅から朝6時台の水郡線に乗り、郡山の高校に通っていました。当時は、趣のある木造の旧駅舎でした。キンモクセイの存在にも気づいていませんでした。

今ふりかえてみると、川東駅のあの古い感じや中学の同級生と会っておしゃべりしたこと、1両で水郡線が走っている風景、ワンマン運転で運転手さんが運賃の対応までされている様子など、水郡線や川東駅に関することが、私の青春の一部だったと感じています。



ここがポイント！

・水郡線は、ローカル線でありワンマン列車（運転士のみで運行する列車）
・四季折々、車窓から見える風景が美しい！

作成者：しおり

戦前・戦中・戦後の 川東駅の貨物運送

第二次世界大戦前の1938（昭和13）年に宇津峰山の鉱区権を取得した「宇津峰工業所（青木亮吉社長）」の採掘は、1988（昭和63）年まで50年間、宇津峰山の中腹で「長石や珪石」を主に採掘し、馬車で川東駅に運んでいた。

川東駅には貨物車が出入りできる引込み線のホームに作業所を設け、従業員約20人が長石、珪石の選別をしていた。これらの石は約10tになると貨物車で愛知県瀬戸市に輸送し、「瀬戸物やガラス」など利用された。

その他、葉タバコや安山岩（江持石）、花崗岩なども貨車で積み出していた。

- ・1945（昭和20）年 駅構内の貨物車はB29（アメリカ軍）から迫撃された。
- ・同じくB29による迫撃で、駅近辺の一般人が防空ごう手前で撃たれ死亡した。



ここがポイント！

川東駅前には日本アスベスト工場があり戦時中賑わっていたが戦後、移転した。

作成者：須賀川市日照田 横田 忠

特産品 「岩瀬きゅうり」「いわせきゅうり」 ～ブランドきゅうり～

「パリっとした歯ごたえと甘みが特徴です」

須賀川市は、夏秋きゅうりの産地として、日本トップクラス（近年伊達市に負けている）の生産量を誇っている。

露地栽培の収穫手伝いに行くと、夏だし外だし暑いことこの上ない。ちょっとした筋トレになるし、ウォーキングになるし、汗だくになるし、フィットネスやサウナに行かなくても運動した気分。帰宅してシャワーをしたら気分爽快！飲みものが美味しい！



ここがポイント！

- ・20cm以上に育ったきゅうりは、甘みが最高で、冷蔵庫に入れる前が特に甘い。（個人の意見）
- ・ディップソース→みそ+マヨネーズ・みそ・もろみ・塩・何もつけない

作成者：せきねえさん

洋食レストラン ピーターパン

パスタの皿に「1992ピーターパン」とプリントされている。創業は、1992年（平成4年）で今年

（2025年）の4月で33年を迎える。先代はらあめん好房の近くで「かどや」という食堂を経営していた。それもあり、この洋食レストランでもみそと塩2種類のラーメンが味わえる。

外観がまた美しいログハウス。友だちを連れていったとき、「うわあ！那須みたい！」と喜んでくれた。有名人も訪れるおしゃれなお店。



ここがポイント！

- ・パスタやハンバーグ、何種類かの中から選べるランチ
- ・皮薄めでチーズたっぷりピザ
- ・特製ワインもある

作成者：せきねえさん

13

小倉屋（小作田商店街）

創業は昭和29年、2代目。昭和の時代は軒並商店があり、近郷近在から買物客が集まり、大そうな賑わいだった。各家庭で自家用車を持つようになり、次第に大型店もでき、小さな商店街は閉店を余儀なくされていった。この店は生き残っている。

「いかの塩から」が有名で、塩からが出来た時は、発泡スチロールの看板が上がる。それを見つけたら早めに行かないと売り切れになってしまう。それほど人気！

「鮭の切り身」もおすすめ。切り身が厚いので焼いてもふっくら。



ここがポイント！

- ・先代は、小倉地区出身→屋号「小倉屋」
- ・「魚屋」と呼んではいるが、野菜や肉、総菜、日用品等売っている。
- ・「こんにちは！」というと「はい！どうも！」とか「はい！いらっしやい！」と威勢のよい声かけもいい。（顔なじみだからかな？）

作成者：せきねえさん

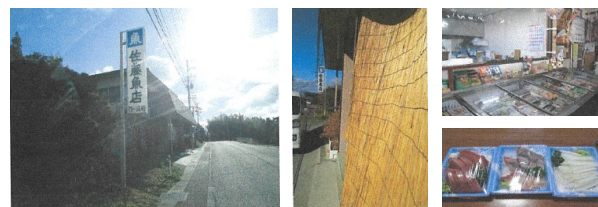
14

雨田の佐藤魚店

昭和52年10月開店、創業47年。ご主人が仕入れて、お客様の注文に応じて魚をさばく。特にかつおの刺身が大人気。注文の刺身が出来上がったら、奥さんが軽トラで配達もしてくれる。

創業当時、地域は養蚕が盛んで、上族（蚕がひける）の時は、刺身の注文で大繁盛だったそうだ。その後、空港ができる頃も景気が良かったそうだ。

今も、ひるげ、ゆうげ、土日と店の前には、車の行列ができています。初がつおは桜の咲く頃から。



ここがポイント！

- ・かつおの刺身が最高！なんと言っても一切れが大きい！食べ応えがあり、ニンニク醤油がぴったり。
- ・まぐろ、ブリ、ハマチ、イカ、タコ等季節によって色々ある。

作成者：せきねえさん

15

大つき菓子店

Q1 おかしの種類は？ ➡およそ25種類

Q2 いつ作られたのか？ ➡昭和35年

Q3 誰が作っているのか？

➡おじいちゃんから受け継いで、今は主人が作っている

Q4 お店が続けられるコツは？

➡おいしい物を作っているから



ここがポイント！

一つ一つが安く、とても美味しいです。
あんこがとっても美味しいです！
それに、お店の方の接客対応もとても良いです。
本当に美味しいので、ぜひ食べて見てください。

作成者：MK

16

今はなき盆踊り（夏祭り）

少子高齢化する中でも毎年やっていた盆踊りも、コロナを機になくなってしまいました。

祭りの太鼓は地区内の男の子がたたくのが通例で、私の兄もたたいたそうです。（うらやましい）

区役員の人が準備してくれるかき氷ややきとりがとってもおいしかったです。

ゆかたを着て行くのも楽しかった！



ここがポイント！

盆踊りの終盤にはたくさんの人で何周も踊って、上手に（頑張って）踊っている人は賞品がもらえました。

みよ子ばあちゃんの唄がなつかしいです。

作成者：永山 心結希

17

公民館でやった餅つき大会

きねとうすで餅つきをしたのはこの時が初めてでした。

友達とみんなで千本ぎねもやらせてもらって、とっても楽しかった思い出です。

自分がついたと思うとなおさらおいしかった！！

でも途中で力つきてしまって、最後は兄がひたすらついて完成しました。（右の写真）



ここがポイント！

公民館（サービスセンター）の事業に参加して新しい友達が出来たりして、世界が広がりました。
公民館の人たちもみんな良い人！！

作成者：永山 心結希

18

さくら美容室

20歳のつどいに急きょ出れると言い出した姉の髪セットと着付けを心良く引き受けてくれたさくら美容室さん。（上級着付師さん）

きちんと希望を聞きながら、その手つきにはまよいが無くて、さすがプロの技でした。

姉も大満足で素敵な思い出になったようです。

ここがポイント！

先代のおばあちゃんがコーヒーを入れてくれてのんびり世間話をしてくれるのが、とってもあたたかい気持ちにさせてくれます。



作成者：永山 心結希